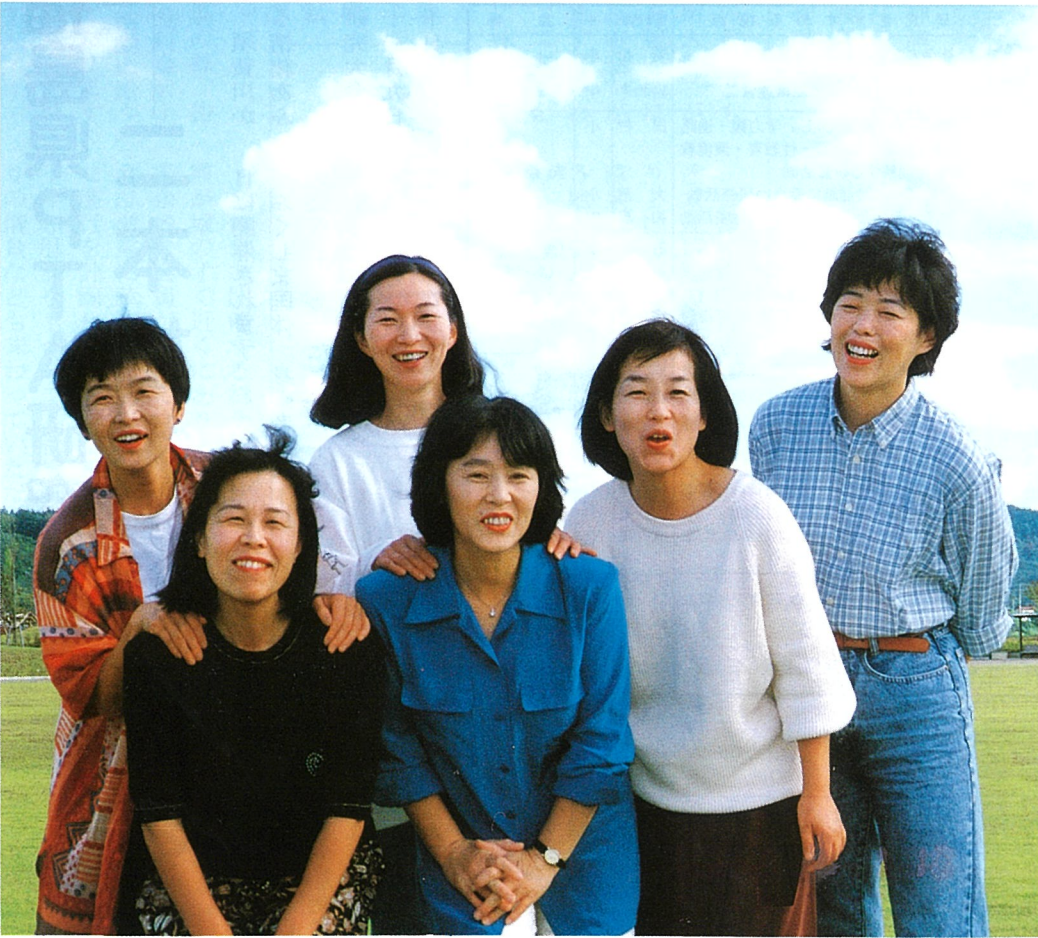


福島県PTA連合会会報
第40号_H07.10.01

県連P広報紙40号記念

子どもと 共に育つPTA

ほんとうの空の下



第40号

福島県PTA連合会
 福島市黒岩字田部屋53-5
 福島県青少年会館内
 電話 (0245)45-5982
 発行人 山岸 清
 印刷 泉印刷所
 電話 57-1071



⇒全国小中PTA広報紙コンクールで見事佳作に輝いた保原小広報委員の皆さん

平成七年度会長をお引き受けして三ヶ月、みなさまがたのご協力のもとなんとか職責を果たしております。さて、本広報誌がみなさまに支えられて今回40号の発行を迎えることができました。その記念号の巻頭言ということで大へん緊張いたしております。

今年には戦後50年、50回国体、大震災、オウム事件等様々な意味で大へんな年だという感じがいたします。特に今、裁判も開始されたオウム真理教関連の事件については、エリートの若い青年がなぜ犯罪に走ってしまったのか、被害者の無念はもとより、加害者の親の気持ちを思うと何ともやりきれない気持ちです。20歳をすぎれば社会人として犯した罪は法によって裁かれるわけですが、親としてはそれだけで済むものではないと思います。

同じ心配をするなら子供時代に充分に仕上げ「人としてあるべき姿」を親の責任として教育しなければならぬと思います。言い換えれば家庭の教育力が問われるといってもよいでしょう。勿論親だけの力で解決できない点がたくさんあります。そこで近くのみならず一緒になって解決への方向を探る必要があります。それが、PTAの原点だと思います。

さきの、文部省と日教組が話し合いの

今、おもうこと。

福島県PTA連合会
 会長 山岸 清

いものです。何といっても、身近な課題の解決が大切です。県下の学力向上の課題、共生する社会、そして人権教育等々子供たちの未来に向けた研究大会を目指して会員の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

同じテーブルに着くことになったこと、大へん喜ばしいことと思います。子供の幸せのため大いに議論を交わしていただき、いじめ・不登校等子供をとりまく諸問題について、教育界は勿論社会全体で解決に向けての努力を期待したいと思います。

今年の日P札幌大会では、特別分科会で日教組の横山委員長の基調提言があり、第一分科会での四国のPTA総会出席率90%という報告に驚き、また、東北ブロック白石大会では、分科会で人材発掘活用法を勉強させていただき、さらに、初めての屋外での全体会として記念コンサート等、今後機会をとらえて皆さまにお伝えしたいと思っております。

十一月の二本松大会では日頃実践活動に取り組んでおられる会員の皆さまと直接お会いし、諸課題解決のため協議をすすめていきます。

今年には戦後50年、50回国体、大震災、オウム事件等様々な意味で大へんな年だという感じがいたします。特に今、裁判も開始されたオウム真理教関連の事件については、エリートの若い青年がなぜ犯罪に走ってしまったのか、被害者の無念はもとより、加害者の親の気持ちを思うと何ともやりきれない気持ちです。20歳をすぎれば社会人として犯した罪は法によって裁かれるわけですが、親としてはそれだけで済むものではないと思います。

同じテーブルに着くことになったこと、大へん喜ばしいことと思います。子供の幸せのため大いに議論を交わしていただき、いじめ・不登校等子供をとりまく諸問題について、教育界は勿論社会全体で解決に向けての努力を期待したいと思います。

今年の日P札幌大会では、特別分科会で日教組の横山委員長の基調提言があり、第一分科会での四国のPTA総会出席率90%という報告に驚き、また、東北ブロック白石大会では、分科会で人材発掘活用法を勉強させていただき、さらに、初めての屋外での全体会として記念コンサート等、今後機会をとらえて皆さまにお伝えしたいと思っております。

の育成をめざすPTAを創造しよう



1995 第44回

福島県PTA研究大会 二本松大会近づく

「花と緑の臨空都市」須賀川から「菊人形と温泉のある情緒あふれる街」二本松へ。

第44回福島県PTA研究大会は
来る十一月九日
(木)・十日(金)の両

日に開催されます。
ふくしま国体、身障者スポーツ
大会など、あわただしい十月が過
ぎ去ったあと、PTAの会員が集
い、「未来をひらく心豊かでたくま
しい子供の育成」について、左の

七分科会でじっくりと考えほし
いと思えます。そして、菊人形や温
泉で心をやすすひとときも加えて
いただければ、なおすばらしいの
ではないでしょうか。
各単Pの参加をおまちしてい
ます。

分科会テーマおよび研究の視点

No.	区分	分科会テーマ	研究をすすめる視点	提言地域(小・中)	会場
1	組織・運営	会員の意識の高揚と活動の活性化を推進する組織運営を工夫しよう。	1. 社会の変化に対応した組織運営 2. 活動の活性化を図る組織運営	若松 小 いわき 中	光雲閣
2	教養活動	学校教育の理解と生涯学習社会に対応し、会員の資質の向上を図る研修活動をすすめよう。	1. 新しい学校教育(新しい学力観・進路指導・国際理解教育・性教育・環境教育)を理解する研修活動 2. PTAの実践活動に役立つ研修活動 3. 生涯学習社会の視点に立った教養活動	田村 小 沼馬 小 大相 中 石川 小 南会津 小	安達屋
3	家庭教育(小学校)	家庭教育の重要性を認識し、家庭の教育力の高揚に努めよう。	1. 子どもに生きる力をはぐむ家庭における心の教育のすすめ方(いじめ・登校拒否・非行行為等の抑止もふまえて) 2. 家庭における学校週五日制、進路指導等への対応の在り方	達南 中 耶麻 中	「陽日の郷」(あづま館)
4	家庭教育(中学校)	豊かな心を持ち、たくましく社会の変化に対応できる子どもを育てる文化・体育・社会体験活動をすすめよう。	1. 心豊かな子どもを育てる地域文化活動 2. たくましい子どもを育てる社会体育活動 3. 生活体験を豊かにする自然・社会体験活動	福島 中 岩瀬 小 北会津 小	アークホテル
5	文化活動	子どもに好ましい環境づくりと健全な子どもを育てる活動をすすめよう。	1. 健全育成を図る地域の教育環境の整備 2. 健全育成のためのPTAによる地域活動 3. 健全育成をめざす子どもの社会参加、奉仕(ボランティア)活動	伊達 小 沼葉 小 両双 中	樺平ホテル
6	健全育成	心身に傷害をもつ子どもの指導を推進するとともに、子どもの心身の育成を図る活動に取り組もう。	1. 障害児への理解を深め、障害児教育に協力する活動 2. 障害児教育関係機関と連携した活動	郡山 中 東白川 小	松溪苑
7	養護教育				

日 程

10:30	12:30	13:20	16:00
〈第1日〉 11月9日(木)	運営打合せ (分科会ごと)	受付 (各分科会会場)	分科会 (7分科会)
8:40	9:00	10:00	10:45
〈第2日〉 11月10日(金)	受付 (全体会場)	開会行事	アトラクション 記念講演 閉会行事

去る八月二十五日、二十六日に
行われた「第43回日本PTA全国
研究大会」(札幌市)に参加させて
いただきました。
第一日目、私は、山岸会長と共
に、第一分科会に出席致しました
が、全国八百名の参加者があり、
会場は熱気にあふれ、研究課題の
討議の時は、我先にと全国のPT
A会長や校長先生が挙手をし、活
発な意見が続く、特に沖縄県のP
TAの方々には旅費が大変だったと
いうのに、発言者が多いのに驚い
てしまいました。
討議の内容は、「PTA活動に対
し会員の意識の向上をはかる方策
と組織、運営の見直しについて」
であり、全国それぞれの活動の意見
を出し、PTA総会において、九
割の会員の参加があるという単P
も。
会員全員の参加をめざし、総会
を欠席した会員の方々のために、
二回、三回と総会を開催している
単Pもあると言う事で、感心?さ
せられてしまいました。
二日目は、参加者全員と共に、

あの、札幌冬季オリンピックの会
場となった真駒内アイスアリーナ
において、釧路市丹頂鶴自然公園
園長の高橋氏による記念講演があ
りましたが、会場の広さに驚き、
会場入口付近に並んだ多くのおみ
やげやさんが気になり、講演の内
容は、あまり覚えておりません。
以上、二日間の大会と一日の視
察旅行に参加させていただき、P
TA役員として大変勉強になり、
一緒に参加された会長、校長先生
方、事務局の方々と懇親を深めさ
せていただき、おいしいカニとラー
メンをいただき、又、遠くから参
加されたPTAの方々と交流を深
められた事で、楽しく、思い出し
残る研修会でありました。
「愛いっぱいではぐくもう、未
来をひらく子どもを」のテーマが
いつまでも心にのこっています。



⇒日本PTA札幌大会。
真駒内会場前の山岸会長以下事務局
の皆さん。

SAPPORO
リポート

福島市連P理事
小 泉 五 男

未来をひらく心豊かでたくましい子ども



▲講演は中村メイコさん／『私の生き方』(略歴)作家、東京生まれ、二歳八月で映画「フクちゃん」でデビュー、女優として現在に至る。作曲

家・神津善行氏と結婚。一男二女(十月(カンナ)八月(はづき)善之介(よしのすけ))の母。「私のズッコケ教育」「メイコのガムシヤラ教育」「メイコ伝」ほか著作多数。

菊の香とともに「菊人形」が絢爛を競い、「ほんとうの空」がますます澄みわたり、二本松を存分に味わっていただける季節に、

ようこそ二本松へ

実行委員長

石澤

孝



県内各地のPTAの皆様をお迎えできることは私たちにとって大きな喜びです。
分科会は安達太良の湯の郷、岳温泉に設営いたします。分科会テーマの視点は実践している活動に沿った提言発表をお願いしておりますので、貴重な情報交換と意見交換ができるものと存じます。

全体会を開催する総合体育館は霞が城のすぐ近くにあります。二千余名の会員が一堂に会しての大会は厳粛に華やかにそして和やかな進捗を計画しています。三百数年の歴史をもつ、二本松提灯祭りの情景なども味わっていただけ

研修委員会から

各都市連Pでは、今年も独自の研究大会が開催され、生涯教育の視点にたった会員の意識の向上につとめておられます。

去る六月二十九日には常置委員会の前に、小中別課題懇談会が開催され、小松榮研修部長の指導助言のもと、充実した研究会となりました。また母親リーダーセミナーが現在四地区で開催されておりますので、ご参加ください。

青年海外協力隊訓練所が開設され「地球市民」の意識が芽生え始めた街、そして城下町のたたずまいの街で、21世紀に活躍する子供たちの育成について考える、そうした深みのある大会になるよう、

心に残る大会の運営を目指して私達実行委員会は最終準備に当たっております。しかし、すばらしい大会を作り上げ盛り上げるのは参加してくださる皆様です。PTAの希望と悩みと楽しみを持ち寄り、友情の輪に入ってください。歴史と伝説と文学と自然に溢れた安達の郷へどうぞお越しください。同様に安達郡PTA連合会一同心よりお待ちしております。

SIROISI レポート

県連P調査広報委員
山野辺 耕

九月八・九日、第二十七回日本PTA東北ブロック研究大会白石大会に出席すべく、磐城自動車道から東北自動車道を抜けて一路白石へ。天気は快晴。気分も爽快。第3分科会「健全育成」に出席「教育環境の整備や子どもの社会参加活動を推進する」が討論題。



山形県中川小PTAの発表から親自身が「やさしく、がまんづよい、自主的」な人間であるべきことを基盤としたPTA活動の提起を受け、子は言われて学ぶ以上に親や大人の姿を見て学ぶ」ことを再確認。

宮城県柳津小PTAでは、「わんぱく祭り」と称する学校行事で保護者や地域の人々を招き、子どもたちによる手づくりの玩具を模擬紙幣で販売するとか。続くこと二十年余。地域ぐるみの伝統は、子どもの健全育成に大きな強みだと感心。県は違っても一般的な子どもの傾向性、親の姿勢はさして変わらずしかし健全育成のために、中川小P、柳津小Pともに、地域の実情をふまえ、保護者、子ども、学校ぐるみで活動していることが特色。研究協議では、伝統芸能の伝承活動、海岸清掃や公道の除草などの「社会参加活動」、そして有害ビデオ自販機、電柱・電話ボックス等の有害広告の撤去などの「教育環境の浄化と整備」等を中心に話し合う。どこも課題山積。目標は何か。そのために何をすれば、活動は学校・家庭・地域が一丸となって行い、そして評価し次に一歩進んだ目標を設定して実践するべしとの助言をいただく。白石城の前に、全体会、シンセサイザーのコンサートを聴きつつ、「サムライ」時代から現代までの時代変遷に身勝手な思いを馳せ、「今」と「今後」のPTA活動を考えている間に閉幕。

晴れの表彰

来る十一月十日の県連P二本松大会の開会行事には、おしまれて職を辞した津野前会長はじめ多数の方々に感謝状、表彰状が手わたされる予定です。

また東北PTA連絡協議会から表彰された八団体PTAのなかから、ユニークな活動を実践している三校に登場願って、「たんPほうもん」にとりあげました。

感謝状

◆県連P前会長||津野英行
◆同副会長||大河内守夫、峯田幸雄、◆監事・理事||近野輝雄、安田好伸、水口秀文、大泉明雄、矢吹貞幸、吉田澄雄、山本一三男、吉田長政、佐藤勝司、室井伊久男、菅野正一、二瓶由美子、橋本ユリ子、◆評議員||穴戸一照、◆各地区事務局長||藤田伸朔、菅野信一、渡部俊朗、水口雄祐、関根照夫、佐藤邦彦、佐川文夫、徳江榮一、肥田野全史、竹内勤、坂内 實、渡部雄次、西楨泰昌、◆県連P庶務部長||佐々木十志春

表彰状

一九地区(七九一単P)から個人一〇二名、団体三五校が表彰される。
団体表彰を受けられる単Pの学校名は次の通り。(PTAまた

いっしょ設備の充実を

『郡山市立郡山第七中学校PTA』

郡山市立郡山第七中学校は、昭和五十四年四月郡山市の発展に伴う近郊への住宅化に対応して、市内二十四番目の中学校として開校された。以来、校風と伝統の発展をめざし、学校と保護者、地域の相互信頼に溢れた学校づくりは、創立当時の意気込みを今にまでかわることなく持ち続けている。

本校PTAの最大の特色は、その組織の盤石さにある。在校生の保護者は、本部、五つの委員会、三つの学年委員会を構成し、本会を退会した役員は、教育活動後援会に所属して、更に学校を支援する態勢をとっている。

この二つの会が、合同して行うのが十一月初旬の文化祭である。バザー、餅つき販売、花木や図書の販売、食堂の開設等々、会員は九月からその準備に入り、学校へ何度も足を運び、案を練り、生徒の声を聞き、地域の人たちが総ぐるみで参加できる文化祭を企画する、そして当日、日曜日をあてるとせいもあって、生徒たちの発表や展示をみる人、バザーでお目あての品を買う人、久しぶりに学校に顔をだす先輩諸兄姉、学校は朝から、ごったがえしの盛況を示す。

そして、お昼。生徒も保護者も地域の人も、にわか仕立ての食堂で餅をほおばり、うどんを食べ、話に花を咲かせるのである。生徒と親が一带となつて、学校と地域が一つになつて、信頼感はますます深まるのである。

こうして得た益金は、全額学校へ寄付される。そして、中庭の見事な庭園ができあがり、校舎西側



にインタープロッキングが完成した。庭のみどりは、生徒たちの学習で疲れた目を癒し、春にはカルガモに巣作りの場を提供する。木のベンチは、生徒たちの語らいの場となり、友情を育む所となるのである。庭園等作りに一段落した今は、ブラスバンドの楽器を購入しており、また生徒たちの運動面、学習面での諸活動を援助する。保

豊かな国際感覚を

『会津若松市立松長小学校PTA』

平成五年九月、会津若松市立松長小学校と、わがPTAは初めての外国人児童を受け入れました。

「サリカヤちゃんとはトルコから来た女の子です。初めは、お友達になりたいと思いましたが、でも、どう言えばいいのか分かりません。なんとか、マイネームイーズゆき、おしべ。は言えました。」

これは、ちょうどその時期、広報委員会が募集した作文の一部です。

この頃、PTAも先生方も皆、この子と同じ期待と不安を抱えていました。外国人児童と、私達以

護者他地域の物心両面のバックアップを受ける生徒たちは、毎日充実した学校生活をおくっており、その活躍には目を見はるものがある。この文化祭の活動を中心とする本校PTAは、更に会員相互の研修につとめ、親睦を深め、連帯感を高めて、生徒たちの幸せを願い、活動を続けている。

「写真はバザー風景」

上に不安を抱えているであろう保護者の方に対して、どう接したらいいのか、五里霧中の状態でした。次々に外国人児童が編入される中で、まず歓迎の意をということ、PTAでは、各種行事への参加を積極的に呼び掛けました。

運動会では、綱引きや宝拾いなど、初めての経験を楽しみ、バザーでは先を争って買物をする姿も見られました。また、料理講習会で、外国の家庭料理を教わったり、バスケット交流試合では、体格の良い外国人の方のすばい動きに圧倒されたりで、お互いに楽しめたようでした。

クリスマスには、外国人保護者の方がサンタクロースに扮してのクリスマス会で、本物だー！という子供達の声が響いた学年もありました。

単 たん 探 P

は父母と教師の会を略します)

【福島】福島第一小、鳥川小、土湯小、野田小 【伊達】五十沢小、伊達中 【安達】岳下小、平石小、五百川小、南戸沢小、木幡第二小、下太田小 【郡山】桜小、朝日が丘小、富田小、宮城小、桑野小、郡山第七中 【岩瀬】須賀川第一小 【石川】平田小、須釜中 【田村】門沢小、下大越小幼 【西白河】白河第一小 【東白川】塙中 【会津若松】城北小、松長小 【北会津】北会津中 【南会津】江川小 【相馬】上真野小 【双葉】津島小、富岡第二中 【いわき】赤井小、勿来第一小、小名浜第二中

PTA協議会東北連絡表

福島県PTA関係者は次の通り。(PTAまたは父母と教師の会を略します) ◇感謝状(前福島県連P会長) 津野英行

◇団体【福島】野田小【安達】岳下小、南戸沢小【郡山】郡山第七中【田村】門沢小【会津若松】松長小【相馬】上真野小【いわき】勿来一小

◇個人(前福島県PTA連合会監事)近野輝雄、(同日本PTA協議員)大泉明雄、(同)室井伊久男、(同理事)橋本ユリ子



りました。また、今年度は四学年の副委員長として、外国人保護者の方にもPTA活動の係になってもらっています。

このように、PTA活動の中で国際交流は実を結び始めています。その陰には通訳としてお願いされる、英会話の出来る人、ボランティアの人々、また、外国人の伴侶となられた日本人の方などの多大な、ご協力がありました。

試行錯誤を重ねながら、現在は、ロシア国籍7人、アメリカ国籍6人、チェルニジア国籍2人、ポーランド国籍1人、トルコ国籍1人、中国国籍1人の計十八人の外国人児童を擁する国際感豊かな学校となりました。今では、子供達も保護者も、外国人だからといって、特別扱いせず、ごく普通の隣人と



して接しているようです。たまたま、同じ松長地区に暮らし、同じ学校で学ぶ中で、自然体で助け合い吸収しあう、これが、校長やPTA会長が目指した真の国際化です。まだまだ、難問は山積みですが、心の国際化が出来あがりつつある松長小では、次々にクリアし

海の子・山の子交流事業

『鹿島町立上真野小学校PTA』

町の事業として、子どもたちを他の地域に派遣し、現地の子どもたちとの交流を通して、自らの経験をより豊かなものにさせようというねらいのもとに実施している

「海の子と山の子とのホームステイ交流」が、本年度は鹿島町立上真野小学校六年生に、七月二十七日〜二十九日の前半は塩川町で八月二日〜四日の後半は鹿島町で両小学校PTA活動協力のもと、交流が行われました。

そこで、「海の子と山の子とのホームステイ交流」における上真野小PTA活動の一端を、保護者の声からいくつか紹介します。相馬市尾浜海水浴場での交流は、山の子たちは、初めて海を見るんだという子や、今度で二度目だと話している子とか、いろいろな子がいましたので、上真野小の保護者は、事故防止のために、子どもたちが

ほろももん

優秀

ていくでしょう。心に垣根を作らないを合言葉にして!!

「写真は国際色ゆたかな鼓笛隊」

海水浴をする区域をぐるりと囲むように立ち、楽しく水泳監視活動を行いました。

最初は、おそろおそろ足だけ海水につかっていた駒形小の山の子どもたちも、だんだん海水に慣れてきたので、上真野小の海の子どもたちが手を引いて、ゆっくり深い方に連れていくシーンは、とてもすばらしい体験をしているんだなあと感激しました。

また、ホームステイということですが、山の子どもたちを自宅に宿泊させることについては、最初は、いろいろと心配しましたが、子どもたちは、夜の火花やゲーム等をして、家族と共に楽しいひとときを過ごすことができました。

更に、子どもたちだけの交流ではなく、親同士初めてのホームステイということで、子どもたちにもどんな物を食べさせたらよいか等



短い交流ではありませんでしたが、互いの家にお世話になり、親子共々貴重な体験をさせて頂いたことはこれまでのPTA活動とは、また違って思い出深い体験でしたという感想を、保護者のみなさんから数多く聞くことができました。

今後も、海の子と山の子とのホームステイ交流会が、鹿島町のこれからの発展のためにも続いていくことを期待したいと思います。



石森洋平くん

「広い……想像以上に……」
これが中国を飛行機から初めて見た時の印象です。首都北京も思っていたのとは違い、道路は広く高層ビルが立ち並んだ近代都市で、おびただしい数の自転車が行き来していたのは壮観でした。

「私が、最も印象に残っていることは、中国人の心の温かさです。昔、日本は中国人を戦争で苦しめました。しかし、北京師範大学第二附属中を訪問した時、その皆さんは、私たち日本人を拍手で歓迎してくれました。そして、スポーツ交流ということで、バレーの試合を行いました。その中で私は、中国人との共通の部分を見ました。勝った時の笑い声、負けた時のくやしそうなため息は、私たち日本人と同じでした。お互いの国の言葉は通じず、片言の英語でかわす会話だけでは、心と心は通じ、今でも文通は続いています。また、この旅を通して、中国の歴史の重みを肌で感じる事ができました。特に万里の長城や、故宮などの壮大さには、ただただ驚き、自分の想像を越え

日中友好 少年少女の翼 中学生の

る迫力のある文明でした。そして、私自身、旅行を終え、見聞を広めることができ、大きく成長したような気がします。有意義な六日間でした。 謝辞

保原小 全国大会で佳作

—日P広報紙
全国コンクール—

第17回の全国小中PTA広報紙コンクールで本県代表の伊達郡保原小PTAの「こだま」がみごと佳作の栄誉に輝いた。(二面写真)佳作といたっても全国のレベルは高く、本県にとっての入賞は久しぶりの快挙である。文部大臣賞は、熊本県菊陽中部小の「広報津田」茨木県立見川中の「もみのき」が受賞した。

事務局 だより

今年度の「福島県小・中学校新聞コンクール」は第31回をかねて次の要領で行われる予定。

▼対象

県内小・中学校の新聞または、PTAで発行する新聞で本年一月以降発行したもの

▼応募方法

発行回数ごとに各一部を平成七

年十二月十日まで、☎九六〇 福島市柳町四一二九 福島民友新聞社会事業部「新聞コンクール係」へ(要項十一月配布)

▼表彰

学校新聞の部、PTA新聞の部に審査し表彰いたします。

※PTA新聞の優秀作品は「全国PTA広報紙コンクール」に出品します。

第19回 子どもの災害事故防止 習字・ポスターコンクール募集

今年も、子どもの災害事故防止習字とポスターを募集します。多数の応募を期待しております。

▼対象

福島県内小・中学生

▼応募規定

募集要項参照(十一月配布)

▼応募締切

平成八年一月二十五日

▼提出先

福島県PTA連合会
☎九六〇 福島市黒岩字田部屋五三―五 福島県青少年会館内

第六回

子ども国際 レインボー便

学用品の寄贈を通じて、子ども

後記

▼年2回、11月と2月に発行していた本紙も今回は二本松大会が11月開催になったこともあって、大会の前宣伝として発行を早めた。

▼40号記念として、昨年からのA版に加えてカラー写真を使わせていただいた。編集子の力不足で予算をふんばつしていたにわりには魅力ある紙面を作れなかったが、一面の笑顔の写真でご容赦を。

▼今年もあと残り少なくなってきた。何ともしごい年であった。国体での本県選手、野茂やイチローの活躍になぐさめられたが、残された日々、せめてよい思い出を作りたい。—良薬にまさるひと言

菊日和一
(西牧トキ子 鏡右町)